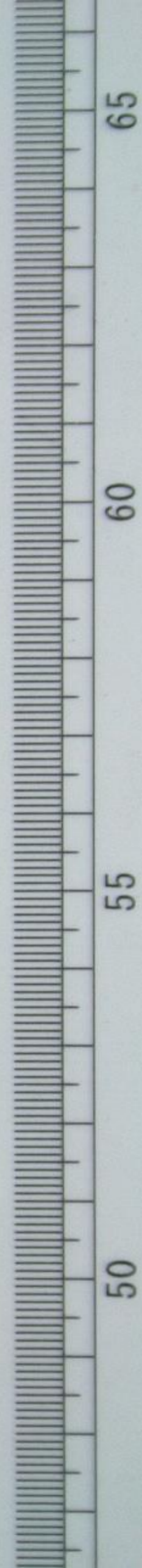


父兄訓

三

13
907
43



世の中より多くあるものなり小子の心を養ふこと今新く父兄訓
 を作る世の父兄より人々子弟に教方あるべきなり父兄より人此
 書を讀みしる子弟を養ふる爲便を爲ししる子弟を養ふてんは是
 後の子弟漸く孝悌忠信を爲ししる世上の子弟多し孝悌忠信
 を爲ししる多しの中より俊秀賢良の上才出現し俊秀賢良の人世
 の中より多しあるべし況や其法を考ふるや此書を以て海内放逸の風俗一
 変ししる忠孝文武の業並ぶる盛なり小子は之を希ふべし敢て忘
 語を爲ししる父兄訓を讀みしる父兄より人小子より直に書を
 讀みしる此書を股膺し子弟を養ふ人子弟を養ふ孝悌忠信

天明六年秋九月

仙臺 林子平識

孝悌忠信の世より人々父兄より子弟を養
 子弟ハ父兄を敬ししる目出度けしめを爲ししる人父兄
 子人より心を養ふる子弟を養ふ

甘藷齋叢書刊
 父兄訓自序
 二

父兄訓

林子平 著

表我人の父兄としての交令——子を養ふことと教
 育の道——人の兄としての責務——弟を教ふる道と
 兄としての責任——仕難きことと責任——只
 孝悌忠信の四を以て家としての中心とする——兄としての孝悌忠
 信と人の士を教ふる道とを併せて論ずる——此孝悌忠信を
 論ずるに父兄としての子弟を教ふる道と兄弟の
 交際の道とを併せて論ずる——兄弟の交際の道と
 子弟を教ふる道とを併せて論ずる——兄弟の交際の道と

作の過らありしや、父兄と人眼目をひき、小子の直
言を賤聞ふは、

人の子弟を持安堵し、樂あり、其子弟の十二、其子弟の利
既、十四五、前文の通り、以悪業初、至姑く不
安堵、必、姑く、安堵の、子弟の苦勞の種、云
ひ或、ハ子、弟、持、実、父兄
あ、十二、其子弟の、ハ、十二、其子弟の
ハ、天性の、色、怒情、直、
り直、父兄の、何事、父兄、

何事、父兄の命令、父子兄弟相令、齟齬、
其子弟相親睦、其子弟孝悌忠
信を、前文、十四五、其子弟の怒情、
了、内身血氣の私心、
後、其子弟の、是、年齢、怒情、
誰人、孝悌忠信を、義理と耻、
私怨、事、色、
其子弟の、義理を、是、故、放蕩、
其子弟の、孝悌忠信を、姑息の愛、我、

世有集書別備 父兄訓

子弟ハ義理ヲ耻トシテ少シノ事ヲ行ク之ハ其ノ恥トシテ
 只平對面ノ怒情ヲシテ事ヲ行ハ故也。流水其ノ會テ恥
 を耻ト思ハズ義理ヲシテ事ヲ行ハ此怒情動ク止ムコトハ抑々
 一々色を拂リ貨を賣リ何事ト放蕩人ノ所業トシテ無頼無
 作法目ノ月ノ移長一己ハ其ノ無作法ノ人トシテ家名ヲ滅ス
 之ヲ危ク父母老親ヲシテ危難ノ因トシテ之ヲ危クシテ子
 弟人ノ不義不作法トシテ此不義不作法ヲ育テ父兄ノ不
 潤法ハ喻ルコトノ有リ父兄トシテ人トシテ之ヲ育テ

愚クテ海人の痴トシテ道術ヲ知テ人ノ其子弟ヲ教導シ其子弟

おとあ〜〜〜文武の藝あり 公儀ありと云ハズ此を云ク彼乃
 子弟トシテ此子弟の劣リたるを其の毒ト云ハル且ハ腹立
 了已トテ子弟を自ラ辱ル誰レの子弟ハ汝同年ナレト云
 生れ付テ其藝ト云ハズ文武の藝ト云ハズ取付ハ 公儀あり
 其眞正ナリ汝等ハ何なるにあり生れ付テ人扱ナリ文
 武の藝ト云ハズ 公儀振ルコトナリ其上不義不作法ト
 了義ナリ不埒ナリ我等ノ身ノ取テ其残念ナリト云ク怒水
 其鳥渡閉テ其尤ク其の振ル水ト云ハズ其其父兄の無作法
 ナリ人ノ善惡ト云ハズ不実ト云ハズ生れ付テ其父兄の教

甘雨亭叢書別集 父兄訓

訓取飼ふまゝとせり此を以て已れハ道術を以てて已れり
 子弟を牛子のみく育むる他の道術ある其子弟を能教訓
 して人道を育てしむるを恨むハ子弟の咎あるを却
 て自ら愚蒙無頼を成すを耻しむは此も子弟の善惡
 邪正ハ十のその一を成すに付あり九を以て父兄の教ありあり
 何れもせし子の惡は父の愚蒙極り弟のありは父兄の不徳を
 極り此下のあるは主君の暗愚を極る是故に子弟乃善
 惡を以て其父兄の可否あり此下の善惡を以て主君乃
 賢愚を以て一目を以てしむる耻しむ

庶子の大和る子弟の賢を以てて事を形やと自存の記を以て對書を
 作し童子を教養し書しを以てて其父兄の父兄の對書に
 書とありしれりあるは此對書を子弟に授けしむる者
 子弟を以てしむる子弟の職を以てしむる者
 子弟を以てしむる父兄を以てしむる者不致不作法あり者
 子弟を以てしむる如此不致不作法あり其根本ハ父兄の教人手作
 の過らざるを以てしむる
 子弟ハ孝悌忠信を以て義理の恥を専らとせしむる者
 子弟ハ孝悌忠信を以て義理の恥を専らとせしむる者

恥しき事ありしは身持を苦く萬事より先んずり此の心を養ふ事なり
身持を其上の徳術に人より才力次第より一ツは孝悌忠
信と云ふ事なり

子を教ふの大切なりけり和漢古今胎教の法あり胎教ハ其子の
胎内の中より其教の法書を述べてあり
母の心持を正しくすれば
懐胎十月の間別れ氣を清く窮屈なき
只大酒大食或ハ淫乱不作法の出會又

進山見物美島廻り等の事あり又淫奔なき
踊長唄浄瑠璃等を聞かば身持を亂れ
母ハ胎教ト云ふ事なり
其氣直に胎内の子を通すゆへ其子不而の氣を清くけり必聰
明正直なり是小子の陰陽造化自然の妙なり
此の法ありて胎教と云ふ事あり
是又父兄の持前あり
先其子弟を家内で行義を正しく

弟を害すをば何より起す。按擧をば今く父の仕世の悪
しき見れば、父の道をや人づから事起る。此種
をば言ひて父の人より其子も亦なり。

世の父兄と人其子弟を起す。教へて

了只此の如く起す。自ら起す。世に起す。聞かざる。自ら

たやゆ。事消す。十輩以上。人氣生。了。あり

る。自ら起す。世に起す。聞かざる。自ら

起す。世に起す。聞かざる。自ら

起す。世に起す。聞かざる。自ら

起す。世に起す。聞かざる。自ら

起す。世に起す。聞かざる。自ら

起す。世に起す。聞かざる。自ら

起す。世に起す。聞かざる。自ら

人の世に實り。才と純。あり。才と純。あり。人の世に實り。

あり。孝悌忠信。義理。恥。孝悌忠信。あり。

今日の入道。五戒。恥。孝悌忠信。あり。

と骨。孝悌忠信。あり。孝悌忠信。あり。

孝悌忠信。あり。孝悌忠信。あり。

考のたふらぬゆゑにひたりひたりと有の政をゆへに先づは
をたふらぬ幼少より先づはをたふらぬ事就きまじりて
日用徳りの助をたふらぬ事ありまじり

子弟をたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事

少く其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修
りて其書小月より上まで一身に修りて家と百歳を修りて國家を修

子弟をたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事
つたふらぬ事恒のたふらぬ事ありまじり恒のたふらぬ事

子書とてまゝの如く学問の武士の所要なりといふは武士の精神なりと馬ハ武
士は是を以て多餘の用カハ武士の所望なりとて人を以て其れを文書の達
を於根本とすといふも其れは亦し其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
凡作の如き事ありといふも其れは亦し其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
智仁勇の三徳ありといふ此を以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
讀書の如き事ありといふも其れは亦し其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
又本朝の國史を讀むといふ和漢國家の時勢興廢を知るは其れを以て其れを以て
此後軍書とて讀むといふ軍事とて其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
通達なり其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て

うゝゝゝの陸丸ゝゝゝの老身身ゝゝゝの日也ゝゝゝの武士ゝゝゝの移ゝゝゝ
 本好子けゝゝゝの移ゝゝゝの武士ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 ねゝゝゝの天文地理ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 了ゝゝゝの南ゝゝゝの持ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 かねゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ

茶の移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 せゝゝゝの日本昔世の文行此ゝゝゝの移ゝゝゝの日也ゝゝゝの移ゝゝゝ
 ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 子ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ

世の学ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 悔又ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 かねゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 かねゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 かねゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ
 かねゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝの移ゝゝゝ

子一己れ父回報する教を以て悦ぶよるは己れを養ふるに非ざるや子の
 如くは其の如くは悦ぶるに非ざるや兄弟の如くは兄弟を養ふるに非ざるや
 十の如くは其の如くは悦ぶるに非ざるや格の如くは格を養ふるに非ざるや
 の其の如くは其の不道なるは回報するに非ざるや若しは悦ぶるに非ざるや
 の悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや

人の父たる者海を以て子とせしむる長成の後身を以て其の如くは悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや

釋迦と勸善懲惡を第一とす人々男と善とを以て人惡とを以て天下
 を治るるに化するは其の如くは孔子と孝悌忠信を第一とす人々五倫を
 明白とす五倫あるは悦ぶるに非ざるや天下治平の基とす悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや
 悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや悦ぶるに非ざるや

孝悌忠信の四字能くわたりて
 其の上は言ふ所の字則ち孝悌忠信
 人の事也 孝悌忠信の子弟百に
 孝悌忠信は是れ孝悌忠信の
 孝悌忠信は是れ孝悌忠信の
 孝悌忠信は是れ孝悌忠信の
 孝悌忠信は是れ孝悌忠信の

學則

孝悌忠信の四字能くわたりて

孝悌親友事道

親の事 不敬や作法の
 の行作道 親の事 不敬や作法の
 悌と兄弟の事 孝悌忠信の
 忠と君の事 孝悌忠信の
 信と友の事 孝悌忠信の

此の書は... 是忠なり

信と毎事... 是忠なり

上天子より下... 信なり

なり... 信なり

右の四徳と人の土庫あり

讀書懈

讀書ハ萬能の源なり

卯の... 讀書なり

辰の... 讀書なり

巳の... 武藝なり

又君子南... 武藝なり

教も軍... 武藝なり

より百枚... 武藝なり

武藝ヲ精出さへ

巳の時より酉の時... 武藝なり

學問と武藝... 武藝なり

良智を能く認めしん字を康くし

人善急邪曰と作く可なれ何と人々善ハ皆若し惡く則ち

人の中存せしむる者一々神明なり多し此良智は向や

取らる

取らる

智仁勇の三徳をきく

智は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

則ち智を

仁は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

勇は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

一学は

勇は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

少は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

は人の良智を問やとけりやと善如此はやと我は人

克己復禮の二言一先人は

克己は己の私欲を去る事なり己の私欲を去る事なり己の私欲を去る事なり

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

附録三章

………

正始のまゝに始むる一途の流儀をなすべし

金穀の経済も人々よく知るべし

大小の禄を厚く家道を勤めし他のちかき事をしなすべし朝暮を

いかに苦直務むべし

飲食男女も人の大慾存をばしなすべし

酒食と婦女と大丈夫の産を失ひて或は身を捨て或は義理を

くも恥辱をくも不相をなすべし一子一孫の國家を承ぶべし

人々よくしなすべし

學則終

又書きて読誦せしむるべし以て教あり左記をなすべし

いかにあはれんべしいかにまげんべしいかに常の道を行ふべし

いかにまごころを盡しなすべしいかにまごころをけりなすべし

鼻息もまごころをけりなすべしいかに文章の礼儀をなすべし

いかに人々のまごころをけりなすべしいかに身は正しく心は正しく

いかに礼儀をなすべしいかにまごころをけりなすべし

いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

父母の恩を懐懐山日く海言ふべしいかにいかにいかにいかに

十
雨亭
書
別集

めり〜お中を〜〜〜日のおけ記録軍修〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

父兄訓終



早稲田大学図書館

011888006410